関西国際空港の現状



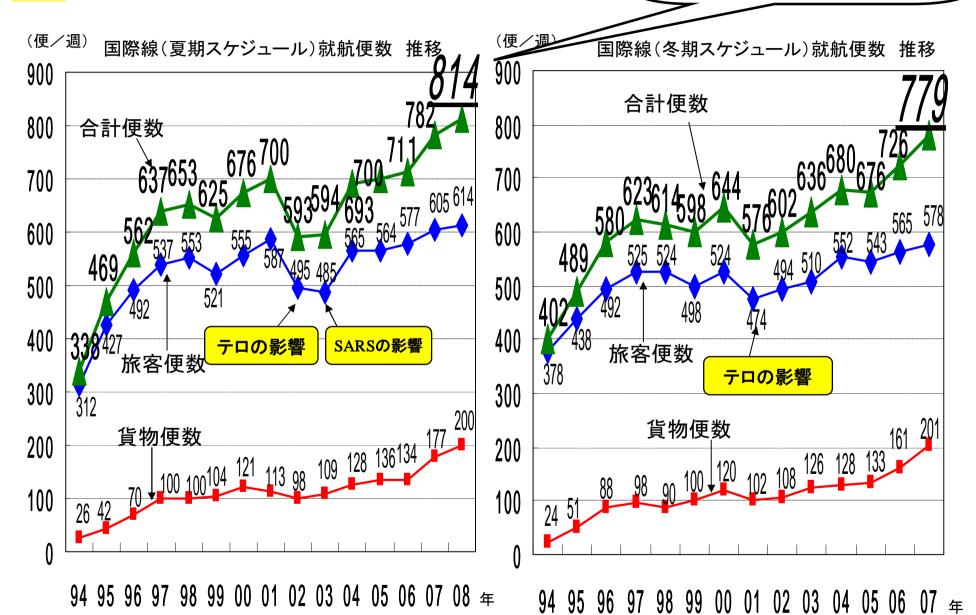
2008年6月2日





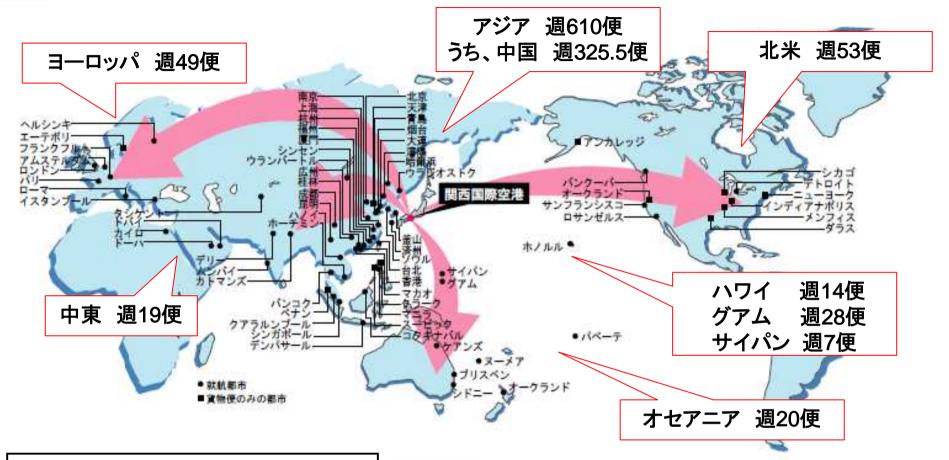
1 - 1. 関西空港の国際線就航便数(定期便)の推移

過去最高便数! 71都市(28力国)に就航





1-2. 関西国際空港の国際線就航状況(2008年夏期スケジュール)



航空会社数 63社

就航国(地域)数 30ヶ国・地域

就航都市数 71都市 就航便数 814便/

814便/週

(過去最高!

※ 夏期スケジュール期間中のピーク月 (8月)の計画です。

就航国 (地域)

カナダ、アメリカ、〈グアム・サイパン〉、イギリス、フランス、 ドイツ、オランダ、イタリア、スウェーデン、フィンランド、トルコ、 ウズベキスタン、ロシア、UAE、カタール、エジプト、 韓国、中国、〈台湾〉、モンゴル、フィリピン、ベトナム、タイ、マレーシア、 シンガポール、インドネシア、ネパール、インド、 オーストラリア、ニュージーランド

各データは関空会社調べ(2008年3月26日現在)





1-3.関西国際空港と中国との充実したネットワーク

貨物と旅客で過325.5便が関空ー中国に就航

貨 物

2008年夏期スケジュールピーク時(8月)計画便数



日本では最大の貨物便ネットワーク

- · 就航会社数15社
- · 就航都市数9都市
- 週間便数96.5便

成田を上回り、 国内の空港でNO.1!

週96.5便(貨物便全体の約48%)

旅客



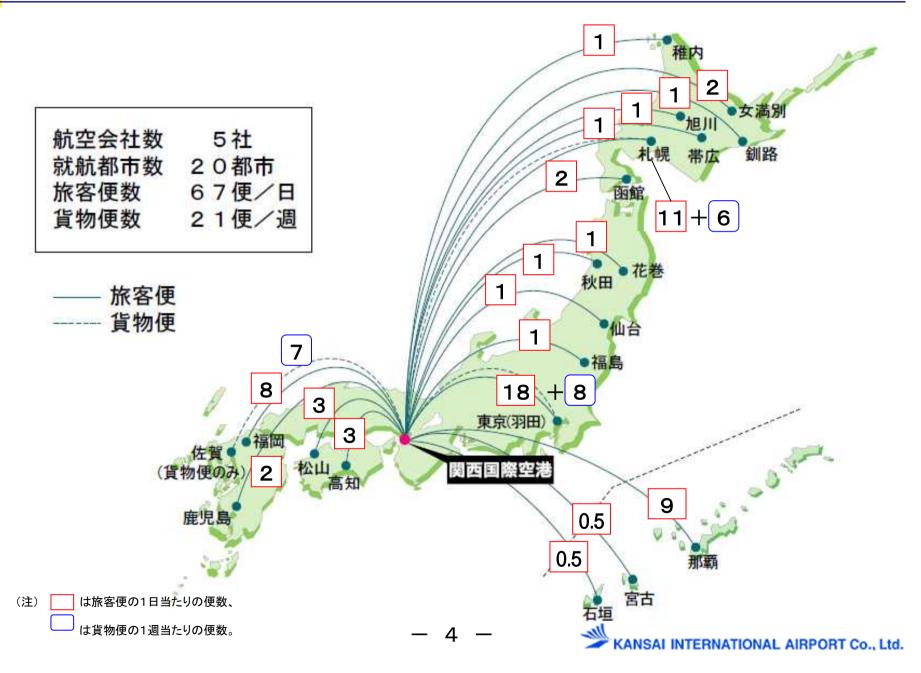
日本では最多の18都市に就航

- · 就航会社数11社
- ハルビン・昆明・煙台・マカオ・福州・桂林には、 成田からは就航しておらず、関空からのみ就航。

週229便(旅客便全体の約37%)



2. 関西空港の国内線就航状況(2008年6月)





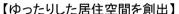
3.お客様のニーズに合った取り組み

〇旅客ターミナルビル 2階北側エリアの再開発

国内空港初! 24時間営業の空港ラウンジ誕生!

・日中だけでなく、深夜や早朝に空港をご利用されるお客様の ニーズに対応するため、インターネットカフェ機能を備えた







【雑誌や新聞等を多数ご用意】

国内空港初の24時間営業の空港ラウンジ「KANKU LOUNGE」をオープン。(2007年3月23日~)

・レディーススペースやキッズルーム、シアタールームなど、お客様の用途に合った様々なお部屋をご用意。

O「KANKU CLUBカード」の発行

- ・空港アクセスの料金割引や、関空発着便の利用で貯まるポイントによる航空会社へのマイル交換、カード会員専用ラウンジの設置など、多彩なサービスを付加し、2006年4月より発行を開始。
- ・各種入会キャンペーンや、 他空港との連携によるイベント 実施など、会員獲得に向けた 活動を継続中。



空港内全店舗への電子マネー導入

・利用拡大が著しい各種電子マネーを、空港内の全店舗に導入し、短時間かつキャッシュレスでのご飲食や、お買い物が可能に!(2008年4月1日~)



[PiTaPa]



[iD]



[Edv]

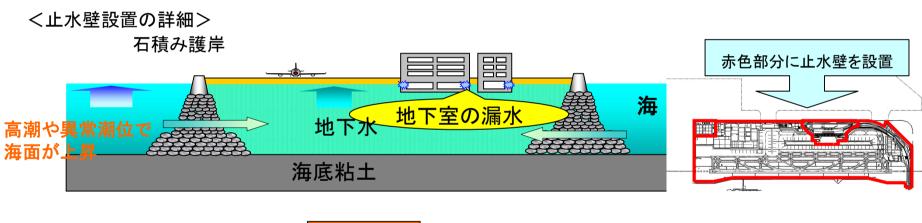
既に、20,000人を超えるお客様がご入会!

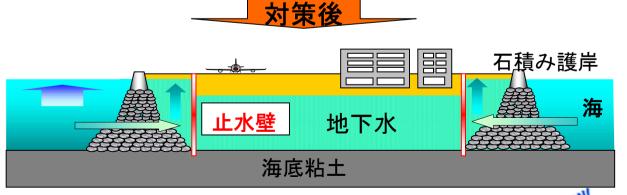


4-1.安全・安心な空港づくり(地下水対策)

1期島の地下水対策事業として2000年より取り組みを開始し、2006年11月に、以下の基本対策が完成。この完成により、1期島の地下水に係る課題が恒久的に解決!

- ①雨水用排水ポンプの設置(集中豪雨対策)
- ②護岸の嵩上げ(高波対策)
- ③止水壁の設置(高潮位による地下水位上昇対策)







【地下水対策事業完成記念碑】



4-2.安全・安心な空港づくり(連絡橋鉄道部全体への防風柵設置)

台風や低気圧等の接近による強風により、空港連絡鉄道が運休するケースが発生。

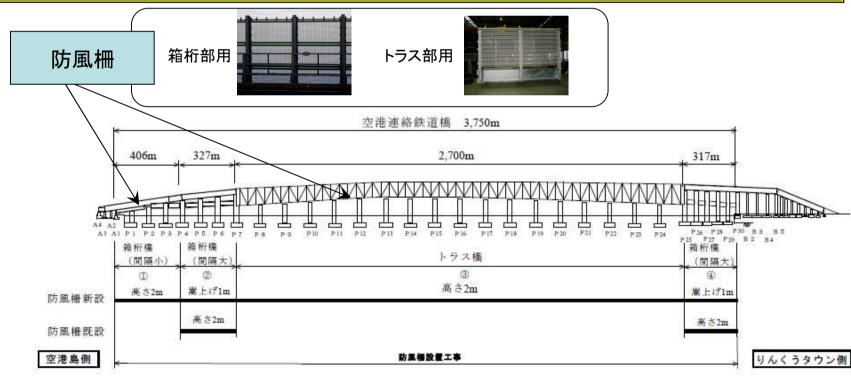


2006年12月より、連絡橋鉄道部分の一部(644m)に設置していた防風柵を、 連絡橋鉄道部分全体へ設置する工事に着手し、2008年4月4日完成!





その結果、鉄道の運転規制値が緩和され、 鉄道運休回数を、開港以来の<u>年間平均11回から年間3回程度にまで、減少させることが可能</u>に。





5. 地元と一体となった利用促進や需要喚起への取り組み

- ①「関西国際空港利用促進本部」(2005年3月設置)による地元が一丸となった 利用促進運動の実施
 - ・地元経済界、地元自治体、国土交通省をはじめ、観光業界や航空会社、鉄道会社など多岐にわたる分野の 団体、会社のご協力により、本部(本部長:下妻関経連会長)を設置。
 - ・従来から取り組んでいる利用促進策のフォローアップとともに、重点項目として、関空アクセスの改善や国際物流戦略への対応、際内乗り継ぎ機能向上などに取り組む。

②経済界協力による「関空利用促進宣言」

- ・海外出張や航空貨物輸送等に際して、関空利用を促進していくことを採択。(現在、1,275社の企業がご賛同)。
- 各企業内において、関空利用について周知徹底するため、社内通知や通達等を実施して頂く。
- ③促進協(関西国際空港全体構想促進協議会)による「集客・利用促進事業」(総額7億円)と連携 した様々な施策の展開
 - ●新規就航奨励金

新規に路線を開設した航空会社に初年度は着陸料の20%相当(次年度は10%)の奨励金を交付。

関空プロモーション

これまでのプロモーション活動で得られた実績や信頼関係等を活用し、航空ネットワークの一層の拡充を図るとともに、第2滑走路オープン後に強く期待される関空の国際物流機能を確固たるものにするため、物流機能の強化に向けたプロモーションを一層強化。(中東、インド、中国、台湾、ロシア、米国等)

「関空旅博2008」開催

・2008年3/22、23、海外の政府観光局や航空 会社、旅行会社などのご協力により、旅の魅力 を紹介する博覧会を開催。

⇒両日合計で、約3.3万人の来場者



国内地方都市での取り組み

土佐電鉄(高知)への車両ラッピング広告実施 2007年4月より高知線は1便/日から2便/日に増便。



その他、福島、札幌、秋田、 福岡など全国各地で、商品 造成会等をはじめとした国 内プロモーションを実施。

第2滑走路オープンのPR

南海電鉄の特急ラピートに、第2滑走路オープンをPRする車両ラッピング広告を実施。



●旅行商品への支援

(「関空10点満点!!」、「関空利用促進ツアーコンペ」)

・JTBが主催する「関空10点満点!!」(関空発着の海外ツアーを35コース設定し、各種特典付きで、2007年8~10月の3ヶ月間で実施するもの)に対し、2006年度に引き続き、2007年度においても支援。

2007年度 販売実績:「関空10点満点」約13,000名

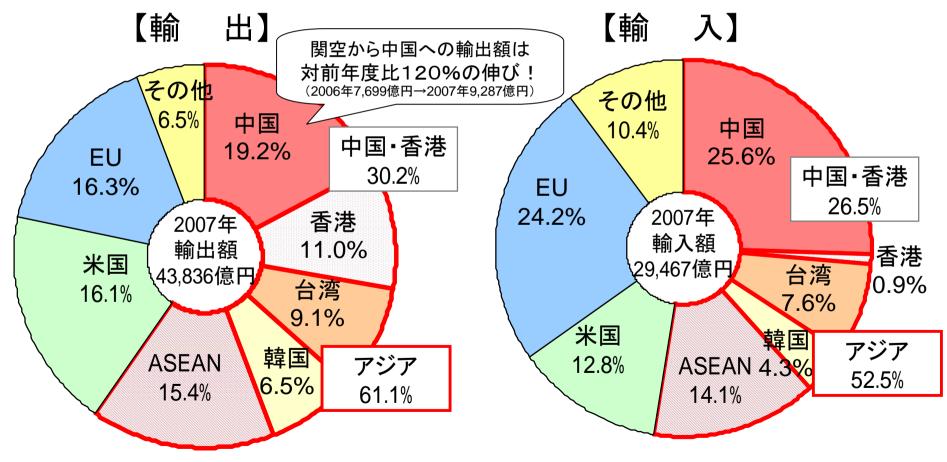
・また、関空発着の海外・国内旅行商品の提案を、各旅行代理店よりコンペ形式で募る「関空利用促進ツアーコンペ」に対しても、2006年度に引き続き支援。 ⇒海外旅行24商品、国内旅行7商品、合計31商品を選定。





6-1. 関空の航空貨物の現状~貿易額の地域・国別割合~(2007年データ)

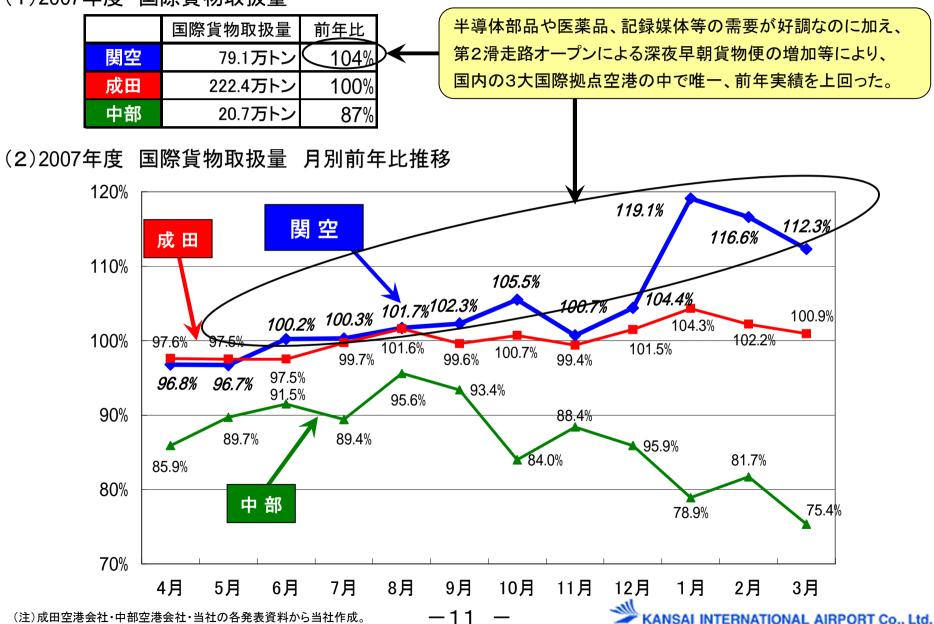
- ◇関空における貿易額の国別割合は、輸出入ともに中国・香港が最も大きい。
- ◇貿易額のうち、アジアの占める割合は、輸出61%、輸入53%。





6-2.3大国際拠点空港における2007年度の国際貨物取扱量

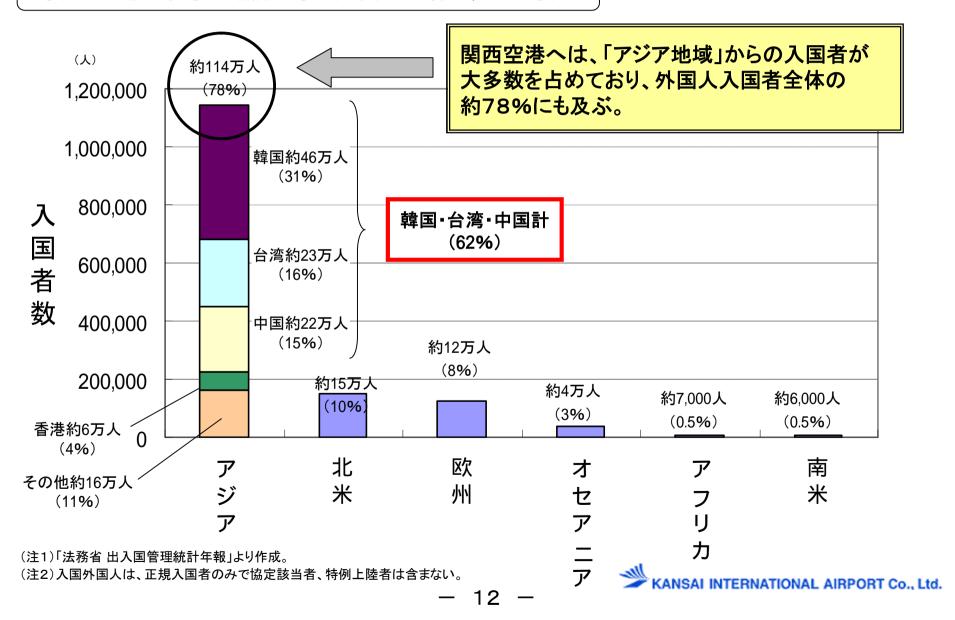
(1)2007年度 国際貨物取扱量





7-1.アジアからの利用者が多い関西国際空港

関西空港 海外地域別 外国人入国者数 (2006年)





7-2.今後予想されるアジア諸国における航空需要の増大

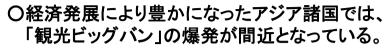
○世界の航空や観光関連の各機関は、将来の航空 旅客需要の年平均伸び率について、アジア・太平洋 地区の伸び率を世界全体よりも高めに予測。

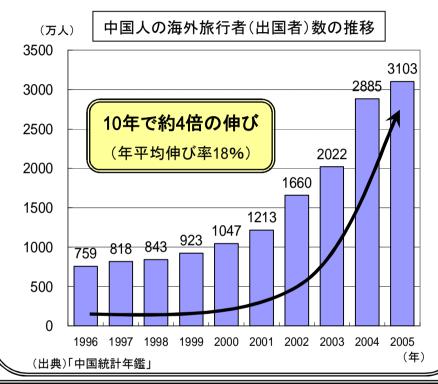
機関	予測期間	年平均伸び率	
		世界全体	アジア・太平洋
IATA (国際航空運送協会)	2007~2011年	5.1%	5.9%
ボーイング社	2006~2026年	5.0%	6.7%
エアバス社	2007~2026年	4.9%	6.1%

- 〇ビザの免除、発給地域の拡大等、「観光ビッグバン」 に向けた環境整備が、アジア各国で着実に進行中。
- ・韓国からの修学旅行生のビザ免除(2004年3月~)
- ·香港市民のビザ免除(2004年4月~)
- ・中国からの修学旅行生のビザ免除(2004年9月~)
- ・中国からの団体旅行者のビザ発給地域を

中国全土に拡大(2005年7月~)

・中国からの家族旅行者に対してもビザ発給拡大 (2008年3月~)





「観光立国」を実現するため、政府が「ビジット・ジャパン・キャンペーン(VJC)」を推進中。

(政府目標)訪日外国人旅行者を2010年までに倍増 [2002年]500万人→[2010年]1,000万人

アジア諸国の高度経済成長を背景とした観光ビッグバンの到来等への早急な対応が必要

(2007年5月16日)

最重要項目10

「航空自由化(アジア・オープンスカイ)」に向けた航空政策の転換

- ~航空自由化(アジア・オープンスカイ)による戦略的な国際航空ネットワークの構築、羽田の更なる国際化、 大都市圏国際空港の24時間化(抜粋)
- 〇関西国際空港・中部国際空港は、我が国を代表する国際拠点空港として、ふさわしい路線の開設や増便が実現できるよう、アジア各国との間で互いに、旅客分野、貨物分野の双方について、事業会社、乗入地点、便数の制約をなくす「航空自由化」を二国間交渉により推進する。 併せて、国内空港とのネットワークの充実や機能分担等により、国際競争力の強化のための施策を推進する。
- 〇まず、中国をはじめとするアジアの各国との自由化交渉を推進する。(アジアを優先)
- 〇大都市圏国際空港は、国内航空ネットワークを海外に繋げる重要な結節点。現在は低調な深夜早朝利用を促進し(24時間化)、国際空港として、最大限有効活用する。
- ○羽田ー関空ー海外の路線展開と乗り継ぎ利便の改善を推進する。

重点7分野

人流・物流ビッグバン

~利用者の視点に立った航空・港湾・貿易手続の大改革(抜粋)

関西国際空港・中部国際空港の早朝深夜活用の推進と国際競争力の強化

- ・関西国際空港、中部国際空港については、地理的・経済的にアジアに近く、24時間運用をいかしてフルに活用することが重要。関西国際空港については、本年8月に2本目の滑走路供用により日本初の完全24時間空港となるものの、アジア諸国との競争を踏まえ、連絡橋料金引き下げをはじめとするアクセスの改善、財務構造の抜本的改善等を通じた国際競争力の強化、物流関連施設の整備等を検討し、フル活用を図っていく。
- ○関西国際空港・中部国際空港の旅客利便の向上、深夜早朝の活用と迅速で便利な国際物流の実現
 - ・国際旅客の利便向上のための様々な取組を、特区の活用も視野に推進。
 - ・日中間の貨物の翌朝配送を可能とする等24時間運用空港のメリットを活かす深夜貨物便の取組について、インタクト輸送等も活用しつつ推進。
 - ・深夜の利用促進のため、関西国際空港の物流施設の2期島への展開(中略)に加え、特区の活用も視野に改善。

